

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 ゆい	代表者	岩崎光登志	法人・事業所の特徴	私たちは、ご利用者様それぞれの疾病・障がい・育まれた環境をそれぞれの個性と理解し、どのようにすれば自分らしく生きていくことができるかを常に模索していきます。今を生きることを大切に考え、一瞬一瞬に喜びを感じられる努力をします。
事業所名	小規模多機能施設 ゆい青葉	管理者	大和田洋子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	2人	2人	0人	0人	5人	2人	2人	7人	18人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	社内研修がe-ラーニングとなり、スタッフ全員がシフトに関わらず受講できる体制が整った。毎月1回の必須研修の他、職場内で研修会を開きスタッフのスキルアップを図る。 ご利用者様一人一人の情報共有に関して、申し送り以外に、それぞれのスタッフが仕事に入る前に確認できる体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> e-ラーニングによりスタッフ全員が研修受講できることで、スタッフ一人ひとりがサービスの内容や質について今まで以上に意識してケアに当たることができるようになっている。 自己評価における改善計画でも、職員の接遇マナーや正確な情報共有など、基本に立ち返る目標を掲げ、「共に支え合う」チームとしての一体化を図っている。 業務の流れに沿ったマニュアルを作成し、それぞれの権限や役割を踏まえて業務を行えるように話し合いを重ねている。 	コロナ禍で対面研修が厳しい中、e-ラーニングを採用し職員が不慣れな中すこしずつ順応している様子がうかがえる。緊急事態が明けたので今後はオンラインと対面の併用で行うのがいいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内での個別カンファを定期的に行っていないので、恒常化を目指す。 ご利用者様一人一人の情報共有に関して、申し送り以外に、それぞれのスタッフが仕事に入る前に確認できる体制を整える
B. 事業所のしつらえ・環境	玄関の周辺に季節の花を植えたり、野菜を植えたりする。外出が難しい中でも、ご利用者様に季節の変化を感じていただけるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> プランターに花を植えたり、畑で作物を作ったり、利用者が日常的に楽しみながら活動することを促し、玄関先にベンチを置いて、涼んだり日向ぼっこをしたり工夫をしている。 ご利用者様が「その人らしく」過ごせる場として外回りの空間を活かすことができるよう、ご利用者様と職員が話し合いながら環境づくりを行っている。 	ご利用者様と一緒にプランターに花を植えたりすることはいいことなので続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 前回の改善計画では、事業所の外回りの強化に取り組みました。今回は施設内の環境整備に取り組んでいきます。 家具の配置や導線の確保など、利用者様の残存機能に考慮し、在宅生活に繋がる施設環境を整えていく。

C. 事業所と地域のかかわり	<p>スタッフが自治会やケアプラザ主催の研修会やイベントに参加する。中学校の生徒の職業体験なども受け入れを行う。地域の人も参加できるお祭りを企画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災イベントへ参加し、中学校での認知症講座を行った。 ・これからも、地元の方との交流の機会を作り、気軽に足を運んでいただけるような雰囲気作りに努めていく。 ・地域の方や包括との連携で何か施設としてできることはないか、検討していきたい。 	<p>認知症サポーター講座について、グループホームなどのキャラバンメイトのほうが地域に出ていきやすいと思うので今後包括と連携して活動できたらいいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが自治会やケアプラザ主催の研修会やイベントに参加する。 ・地域の人も参加できるお祭りを企画する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>ご利用者の自宅で生活環境を理解し、担当者会議などを通じて包括や民生委員、近隣の方やご友人などにも支援に参加していただけるようにする。ご利用者にも自治会やケアプラザのイベントに参加していただく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下で施設の面会制限を解除しておらず、法人としてはご利用者様や職員が外部の方と接触する機会を減らすことを推奨しているため実現に至っていない。 ・地域の行事にご利用者様と参加することもできていない。 	<p>このコロナ禍で地域の防災訓練や認知症サポーター講座で参加していることは評価できる。地域とのかかわり方はコロナ禍で変化しているので包括でも今後の課題でもある。これからも積極的に関わってほしい。</p>	<p>引き続き、ご利用者の自宅で生活環境を理解し、担当者会議などを通じて包括や民生委員、近隣の方やご友人などにも支援に参加していただけるようにする。ご利用者にも自治会やケアプラザのイベントに参加していただく。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>運営推進会議の場で、地域での困りごとなどを共有できるようにする。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の場で、地域での困りごとなどを共有できるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	<p>事業所で行う防災訓練に地域の方にも参加していただけるように声掛けする。自治会の防災訓練に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所の防災訓練に地域の方にも参加していただけるようにする。 ・災害時のBCP見直しに法人として取り組んでいる。 ・施設職員だけで避難を行う限界を具体的に確認して、地域の方との協力体制を築いていけるように努めたい。 	<p>先日、地域防災訓練に参加していただいたがこのように地域のイベントに参加していただければご紹介もできるので今後も参加してほしい。防災に関してはいつも気になっている。いざという時はスタッフだけではどうにもならないので防災を頑張ってもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害や緊急の対応に備えて、災害時のBCP見直しに法人として取り組む。 また消防署の方や地域住民の方とも連携を図っていく。